

製品名: GAD67 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11249**

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | 未修正 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000 |
| 分子量 | 67kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | GAD1 |
| 別名 | GAD1; GAD; GAD67; Glutamate decarboxylase 1; 67 kDa glutamic acid decarboxylase; GAD-67; Glutamate decarboxylase 67 kDa isoform |
| 遺伝子 ID | 2571.0 |
| SwissProt ID | Q99259 |
| 免疫原 | 抗血清はヒト GAD1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 471-520 |

背景

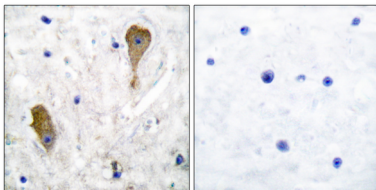
グルタミン酸脱炭酸酵素 1 (GAD1) Homo sapiens この遺伝子は、インスリン依存性糖尿病の主な自己抗原として同定されている。

ルタミン酸脱炭酸酵素のいくつかの形態の1つをコードしています。コードされている酵素は、L-グルタミン酸から γ -アミノ酪酸を生成する触媒を担っています。この酵素は、インスリン依存性糖尿病における自己抗原および自己反応性 T 細胞標的として同定されているため、ヒトの膵臓における病原性の役割が特定されています。この遺伝子は、スティッフマン症候群にも関与している可能性があります。この酵素の欠損は、発作を伴うピリドキシン依存症につながることを示されています。この遺伝子の選択的スプライシングにより、主な 67kD 型と頻度の低い 25kD 型の 2 つの産物が生成されます。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月]、触媒活性: L-グルタミン酸 = 4-アミノブタン酸 + CO(2)、補因子: ピリドキサーリン酸、疾患: GAD1 遺伝子の欠損は、常染色体劣性対称性痙性脳性麻痺 (SCP) [MIM:603513]の原因です。脳性麻痺 (CP) は、運動および / または姿勢の神経疾患の異質なグループであり、推定発生率は出生児 250 ~ 1,000 人に 1 人であり、最も一般的な先天性障害の一つとなっています。対称性痙性 CP には非進行性のものも確認されており、メンデルの法則に従う常染色体劣性遺伝様式を示します。患者は、発達遅延、精神遅滞、および時には表現型の一部としててんかんを呈する。機能: GABA の生成を触媒する。、オンライン情報: グルタミン酸脱炭酸酵素のエントリ、類似性: グループ II 脱炭酸酵素ファミリーに属する。、サブユニット: ホモ二量体。、組織特異性: アイソフォーム 3 は、膵島、精巣、副腎皮質、およびおそらく他の内分泌組織で発現されるが、脳では発現しない。、

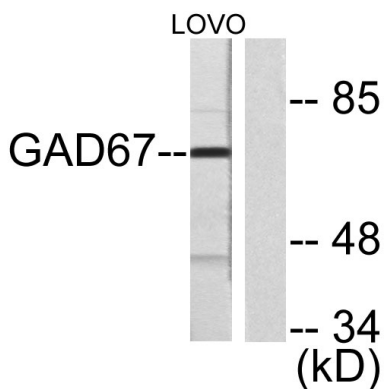
研究分野

アラニン、アスパラギン酸およびグルタミン酸代謝、ベータアラニン代謝、タウリンおよびヒポタウリン代謝、ブタン酸代謝、1 型糖尿病。

画像データ



GAD1 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



GAD1 抗体を用いた LOVO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。